

梁木理史先生御侍史

突然お手紙を差し上げる失礼をお許し下さい。「とーとうがなし」でお世話になっております「

」の長女の と申します。

先日はお電話で明確な情報提供と丁寧なご説明をして頂き、心より感謝申し上げます。家族にとって、担当医の先生から直接お話いただけたのが何よりも心丈夫でした。有難うございました。

さて、母は、生まれも育ちも四国は香川県の高松です。晩年、認知の母を父一人で面倒をみる事が叶わず、母は理解せぬまま、娘の元=大牟田の地に参りました。父は3年ほど前に白血病でこの世を去りました。

父亡きあと、母を自宅で面倒見ることが私の役目！！せめてもの恩返しと踏ん張ってみたものの、私が大事故で腰椎破裂骨折・・・母を手放さざるを得ない状況に陥りました。そこで、ご縁を頂いたとーとうがなしさんと、母は周りの方に恵まれて穏やかな日々を過ごしている次第です。

今回、一時的にも血圧60・・・「危篤」という文字が脳裏に浮かびました。ところが、職場を後に母のもとに駆け付けた頃には、母は心配をよそに、何事もなかったかのような表情で、手を振って息子に答えていました。生きることに懸命な母、逞しい生命力に涙が溢れました。

先生、母は寂しがり屋です。コロナ禍の病院のベッドで孤独に過ごすこと、安全管理のため手足を縛られることをよしとはしません。父が、無菌室で過ごした季節の中で、「人間らしい生活をさせてくれ」とつぶやいた最期を思い出します。

母には、人の気配や息吹、時に歌声や生活の匂いのする温かみのある場所で過ごして欲しいと願

います。勿論、治療や投薬で健康寿命が延びる手段、過程としての入院は臨みたいと思いますので、アドバイス頂ければ、幸いです。

一人っ子の私は、母のこれからの様々な判断をせざるを得ない立場です。折々にふれ、ご相談申し上げることもあろうかと思えます。勝手なお願いですが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

末筆ながら、一人一人の生き方に寄り添う医療や社会課題に果敢に取り組むお姿に感銘を受けました。訪問医療の充実や在宅医療サービスを広げることを目指す先生のご健勝とご活躍をお祈りいたします。